



四條畷市議会議員

ながはた

# 長畑ひろのり News



発行：2007.08.01

vol.002

e-mail : sky@nagahata.jp url : http://nagahata.jp  
blog : http://nagahata.cocolog-nifty.com-blog

phone : 072-878-3205  
fax : 072-877-1194

## こんにちは、市政報告です！

皆さん、こんにちは。7月後半は参議院選のため、私の市議としての活動が制限され、朝の駅立ちや広報活動ができず、ご無沙汰をしていました。

実は7月26、27日の二日間、夕張市へ視察を申し込んでいた所、市側の受け入れ体制がとられて最初の議員として、私の所属する市民連合の3名が選ばれ視察に行きました。

視察以外の会派としての活動は、6月29日午前中に砂地区のイオンモールや岡山東地区の西南開発関係を含む都市計画の勉強会を、市の都市計画課の方と行いました。また午後は、清滝地区にある四條畷市交野市清掃施設組合へ行き、焼却炉を見学し現状の説明を受け、その後、交野市にある新炉建設予定地へも行きました。他の日には、消防関係の方と、消防の広域化・新しく購入する救助工作車についての勉強会をしました。以上の内2点については裏面に書いています。

派遣議員としての私の活動は、くすのき広域連合議会の臨時会が7月6日に開催され、四條畷市からは公明党の曾田議員が副議長に選ばれました。

以上の件や6月議会の件を、7月27日夜7時30分から(夕張市から戻って10分後)おこなわれた長畑ひろのり市政報告会において、市民の方へ直接報告させて頂きました。

## 「夕張市」行程報告です！

7月26日朝6時45分に市役所を出発し、タクシー、モノレールで伊丹空港へ行き、電車、バスを乗り継いで、夕張市へ着いたのは、午後2時30分でした。すぐに夕張市役所へ入り、2時50分から5時30分頃まで、市役所内で



行政側の説明を1時間40分程受けたり、終わってからも新聞社の取材を受けたり、職員と打合せをしたりしていました。

その時の模様は、翌日に配られた道内版朝刊の朝日・毎日・北海道新聞(画像参照)に載りました。

終わってからホテルへチェックインし、夜は7時から9時まで、夕張市職員と食事をしながら、夕張市のおかれている行政側の生の声を聞かせて頂きました。

次の日は、朝9時にホテルを後にし、市内を歩きながら開いている店に入って、そこで働いている人に話を聞きました。

そして10時から12時までは地元で活躍しているNPO法人ゆうぱり観光協会の方5名と懇談を行いました。その5名の中には、この財政再建団体になってから辞めた市職員と市議会議員も含まれており、また違った観点からの話も聞くことが出来ました。

主にTV報道された新商店街横にあるシャッ  
← ターばかりの飲み屋街



整備された新商店街 →

聞けば聞くほど、マスコミ報道とまったく違う夕張市民の声に、まだ留っていたかたのですが、予定時刻は過ぎており、12時30分に夕張駅発の電車に乗り、電車、飛行機を乗り継いで関空へ。四條畷駅へ着いたのは夜の7時を回っていました。そこから、私の市政報告会場の市民総合センターへタクシーで。・・・忙しい二日間の視察は終わったのです。

## 間違った「夕張市」報道！

「夕張、苦(食)ぱり、坂ばかり、ドカンといったら死ぬばかり」帰阪直前、市民に教えて頂いた当時の戯れ歌が、今も人情の厚い市民の意識を物語っていると思います。

夕張市は国の炭鉱政策でまちが作られ、そして国の方針転換により今があるのです。そういう中、炭鉱から観光へ市が方向を決めた時も、国や道は応援したのは間違いありません。

私が出た数名の市民は、こう言われました「我々が選んだ市長も議員も、市民の為にやってくれた。市には感謝している。しかし、国や道は恨んでいる、許せない」と。また、「夕張市みたいになりたいと、日本中に言わせたい」と。

・・・夕張市視察報告は次号へ続きます。

# 「焼却炉」視察報告です！

エコクリーンセンター、いわゆる四條畷市の焼却炉についての視察報告をさせていただきます。

所在地は西部地域から見上げる山の中腹、清滝地区にあり、四條畷市と交野市のゴミを焼却しています。問題は炉が出来た時期で、すでに耐用年数を大幅に超えているとの事です。

- 【1号炉】 竣工年月日 昭和42年7月1日  
平成19年で40才の炉です。
- 【2号炉】 竣工年月日 昭和48年4月1日  
平成19年で36才の炉です。

右の写真はろ過式集じん器や誘引送風機廻りです。こう見ると綺麗な状態ですので、問題はないと思っ



ています。しかし、こういう上物は、時代の求める環境に応じて新たに足されたり、塗装されて綺麗なだけで、肝心の炉部分は先に書いたように、すでに40才を超え相当傾いており、また、多くのヒビ割れも見られ、目視する限りいつ壊れてもおかしくない状態ですので、早急に対策が必要です。



またトラックよりゴミを降ろす左の写真のピット部分も、風が吹けばゴミが施設の周囲にまで舞う状態で、残念ながら、とても現在稼働している焼却炉とは思えない建物でした。

もし、この焼却炉が壊れたと仮定しますと、ゴミを置いておくピットの処理能力は2日間

との事で、すぐに市内はゴミがあふれます。そうならない為に、ここで働く人々が知恵を絞って何とか高齢の炉を動かしてくれている、これが市民には見えにくい焼却炉の実情です。

しかし、一刻も早く、現状の焼却炉をどうするのか？新炉予定地をどうするのか？四條畷市と交野市が協議の上、結論を出さなければいけません。

そしてそれと同時に、行政も市民がゴミについて関心を持つような啓発も、常に行っていかなければならない、この点は特に重要だと思います。

# 砂地区イオンモールについて！

イオンモールについてですが、平成18年5月の都市計画法等の一部改正により、大規模集客施設が立地可能な地域も限定され、立地が制限される3用途地域において立地を可能とする、新たな地区計画制度が大阪府により創設されることとなります。(平成19年11月30日施行)

その大阪府のガイドラインに基づいて、四條畷市が地区計画を新たに作成することで、誘致計画は法的に大きな前進となります。だからと言って、民間主導の計画が変わることもなく、今の時点で皆さんにイオンが来るのか来ないのかと問われても、イオン側が答えられない限りわからないのが実情です。

以下に砂地区イオンモール計画案と、実際に営業をしている大日イオンの比較を記します。

	砂地区計画案	大日イオン
敷地面積	186,000㎡	53,285㎡
商業店舗	地上3階建	地上4階建 (一部地下1階)
建築延床面積	197,200㎡	151,410㎡
店舗面積	87,050㎡	76,544㎡
駐車台数	5,140台	2,274台

大日イオンは駅が隣接されているため、駐車場が少なくても良いので敷地面積は少ないのですが、それでも、いかに砂地区に計画されているイオンモールが大きいかわかると思います。たとえば、良く例に出る甲子園球場ですが、グラウンドとスタンドを合わせた敷地面積が39,600㎡ですので、イオンモールの敷地面積は、甲子園球場の4.7倍となります。

オープンには第二京阪道路の開通に合わず計画ですので、それを考えると平成22年となるのですが、第二京阪道路の工事自体が遅れる可能性もあり、また、今の進捗状況では第二京阪道路が計画通り開通しても、イオンモール側が計画通りオープンするのは厳しい状況です。

実際、行政がイオンモールを誘致するとの前提で計画を進めている今、解決



しなければならぬ問題は山積しています。地域の商業は？道路の整備は？ゴミの問題は？・・・。

誘致と同時に、これら数々の解決策を示し動かさなければならぬにも関わらず、あまりにも見えてこないのが現状です。

以上が、私の現在知りえるイオンモールの状況です。